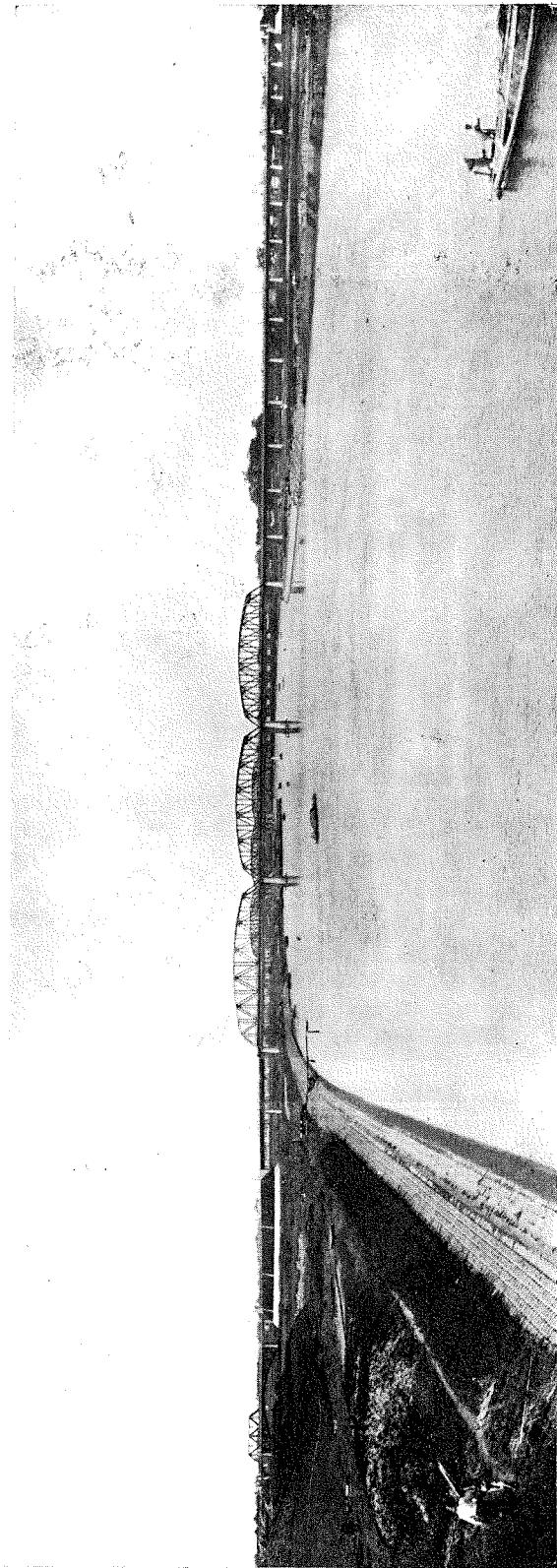
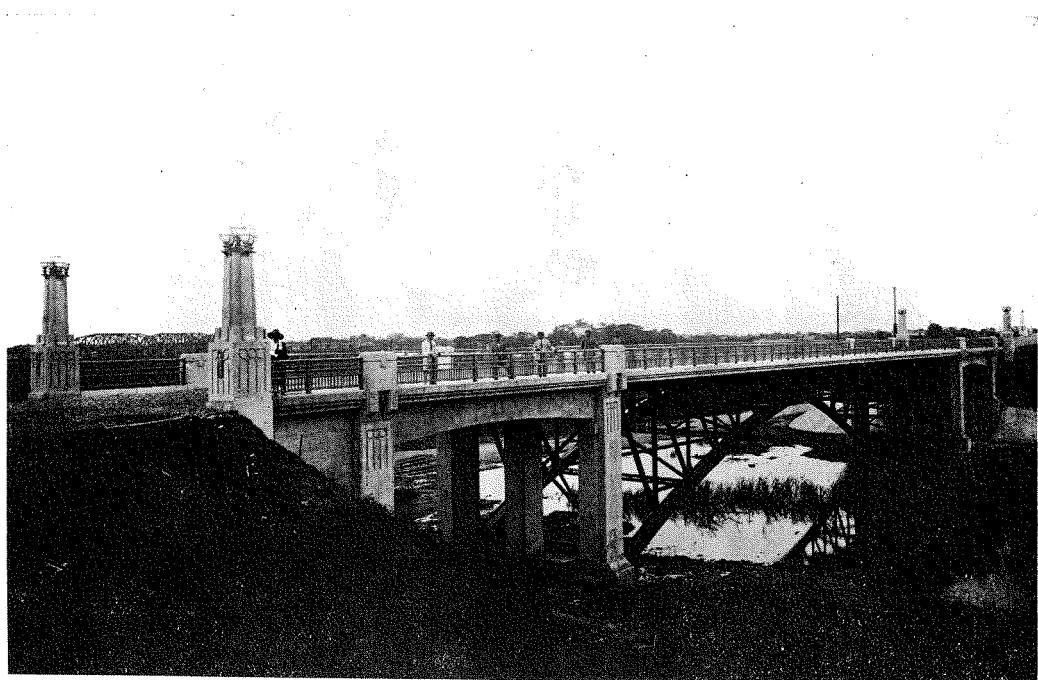


(1) 新荒川大橋



東京府北豊島郡岩淵町、埼玉縣北足立川口町をつなぐ。  
設計監督 東京府土木部 横河橋梁製作所製作 水野甚次郎 工事請負  
寫真は下流方の岩淵閘門附近より望む。  
左方即ち右岸にトラスの見えるは鐵道橋、中央にも少し鐵道橋のト  
ラスが見えてゐる。



(2) 新荒川大橋、右岸寄を川下より望む

### 東京府と埼玉縣とをつなぐ

## 新荒川大橋架設工事

東京府土木部技術課長

工學士 藤田周三

### 新荒川大橋架設工事概要

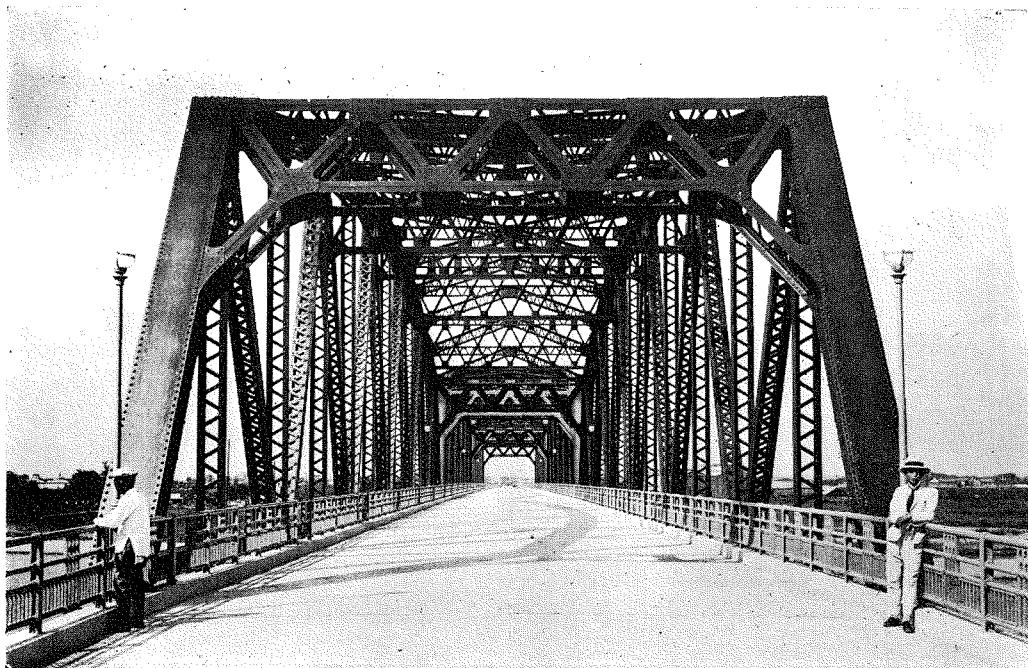
#### 一、沿革

本橋は東京府、府縣道第六號東京川口線と埼玉縣、府縣道第八十號鳩谷岩淵線を連絡し荒川に新設せられたるものにして有効幅員四間(七、三米弱)延長四百六十四間(八四三、七米強)に及ぶ長大橋にして新に之を新荒川大橋と命名せらる。

由來本路線は古く岩槻街道或は日光御成街道と稱して周く知らる。帝都北門を扼する樞要路線の一にして之に依り近來停止することなき産業の發展は大東京と埼玉縣との交通運

輸を益々緊密ならしむ。然るに本路線は荒川に架するに貧弱なる賃取船橋を以てし僅かに人畜の往來と制限せられたる牛馬車の通行を許すのみにして然も僅少なる出水にも忽ち交通絶の已むなき状況を呈し地方産業の振興を阻害せるもの蓋し渺からざるものあり。

東京府及埼玉縣は夙に鑑みる處あり大正九年府縣會の決議を經て工費八十一萬圓兩府縣折半負擔となし五ヶ年繼續事業として之が設計及工事施行を東京府に於て擔當する事となり。然るに偶々大正十二年九月未會有の關東大震災に遭遇し財政上に一大頓挫を來せるに



(3) 新荒川大橋、中央構桁の正面景

因り更に三ヶ年の工期延長を餘儀なくせらる其間設計を完成し大正十五年九月下部構造工事に着手せるを初モし爾來月を閑するこ三二ヶ年昭和三年九月茲に全く其工を竣れり。

本橋の構造は高速度及重量に堪ゆる目的ミシ尙水運の便を計り洪水の厄を慮り耐震耐火にして永久的且つ近代的設備を施せり。斯くて多年の願望は茲に酬ひられ將來の産業交通其他一般文化に資すると大なるものあらんこす。

## 二、計畫の大要

本橋は東京府北豊島郡岩淵町、埼玉縣北足立郡川口町入會、荒川に新設せられたるものにして其位置岩淵閘門ミ鐵道東北本線荒川鐵橋より略、等距離に介在す。

橋梁有効幅員四間(七、三米弱) 橋梁延長二千五十六尺三寸五分(六二三、一米)右岸突堤七十三尺四寸八分(二二、三米弱) 内務省計畫新河岸運河堤防敷築堤百九十七尺七寸三

分(六〇、米弱)左岸突堤四百五十六尺六寸九分(一三八、四米弱)總長二千七百八十四尺二寸五分(八四三、七米強)ミス。

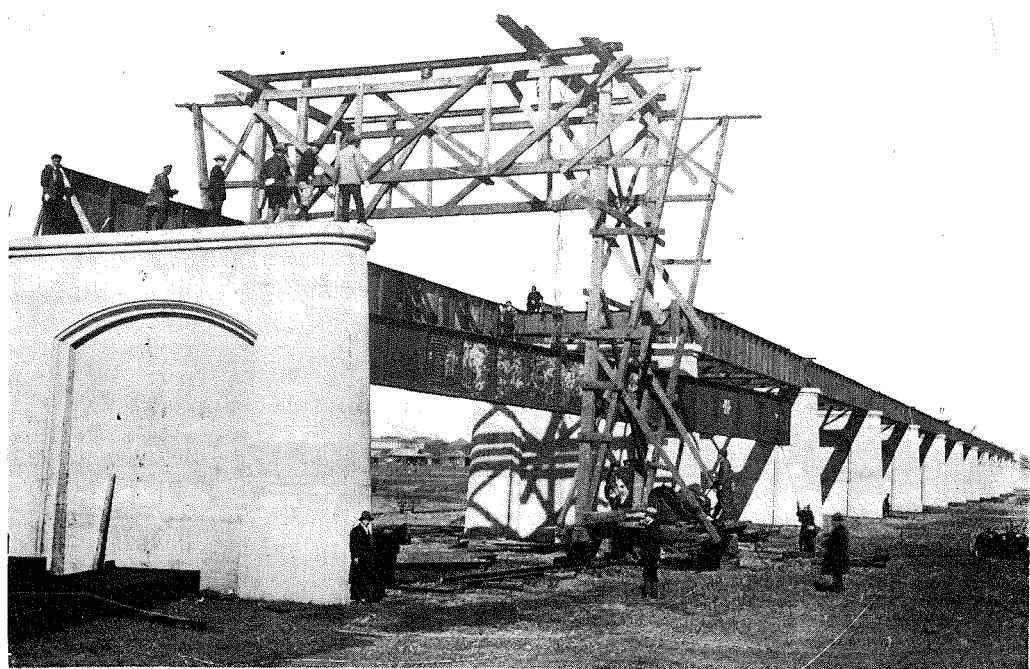
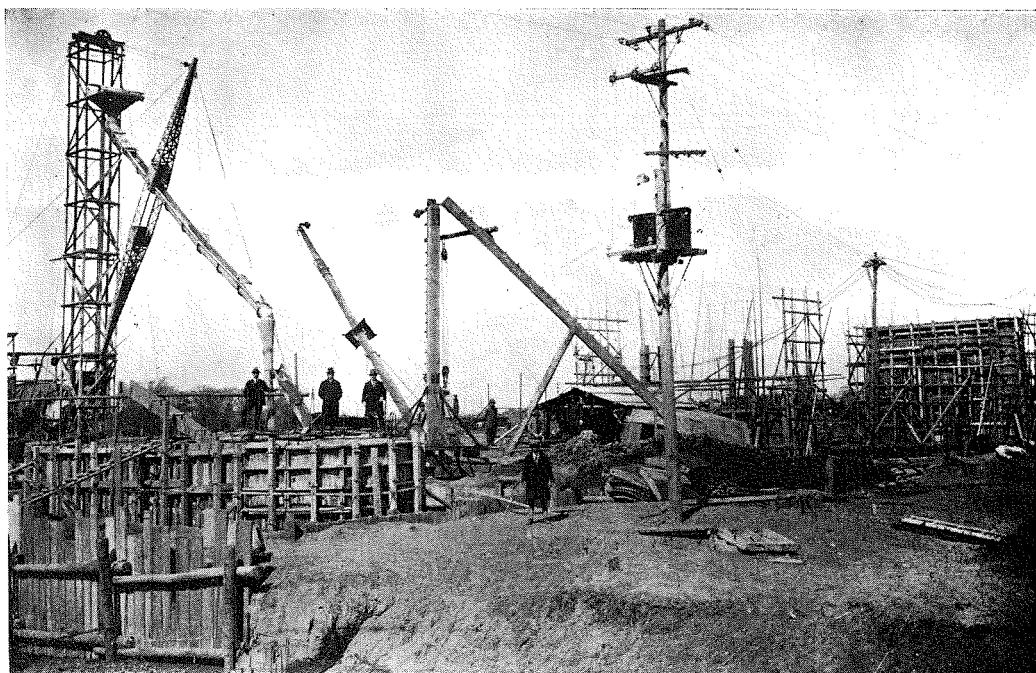
橋梁は徑間二百六呎ワーレン結構橋三連、徑間百四十呎拱橋一連徑間七十五呎桁橋十六連より成る。

床版は鐵筋混擬土構造ミソリデチツト鋪裝を爲す。橋臺は基礎に松丸太を打建て橋脚基礎は底水敷部は井筒基礎、洪水敷部は杭打基礎にして主體は何れも鐵筋混擬土構造ミス

縦勾配は右岸突堤部三十五分一、拱橋部水平、中央築堤部及之に連續する桁橋二徑間を五十分一、結構橋三連中、中央徑間を水平、兩側徑間を五寸下りミ左岸寄桁橋十四徑間を三百七十八分一同上突堤部を八十八分一ミセリ。

荷重及設計方針は内務省規定道路構造細則に準據し國道荷重を採用し永久的構造ミセリ。(以下次號)

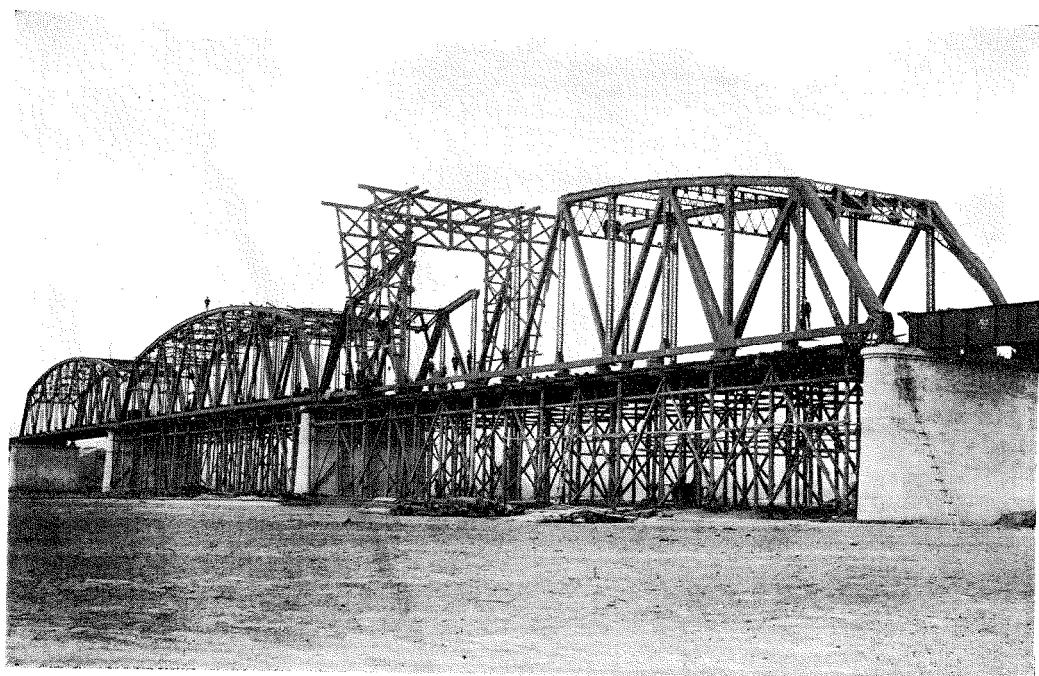
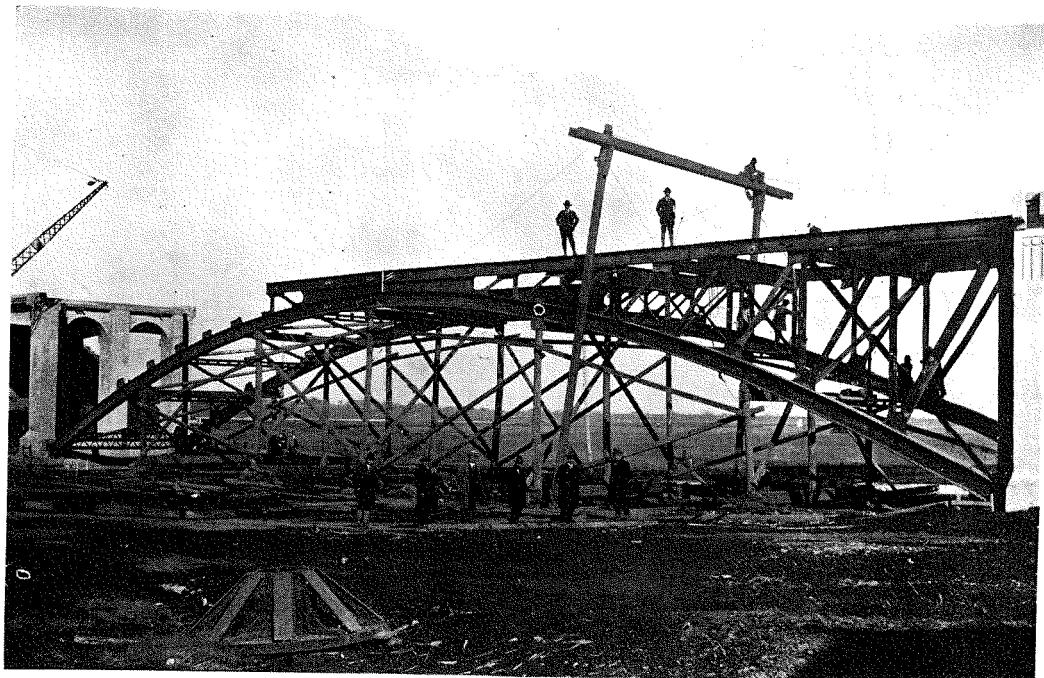
—新荒川大橋架設工事—



(4) 上圖は第五號、第六號、第七號橋脚工事實況

(5) 下圖は鉄桁橋架設工事實況

—新荒川大橋架設工事—



(6) 上圖は拱橋架設工事實況

(7) 下圖はワーレン結構橋架設工事實況